



題字 大西 一史 市長

熊本市PTA協議会 研究大会

平成30年11月17日(土)

◆全体会

『母子と家族のための
いのちの授業 生まれてきてくれて、
ありがとうを伝える子育て』

めぐみ助産院代表 寺田恵子氏

子育てとは何だろう。冒頭でその根本への問いが投げられました。

PTAという皆が子どもの育ちに関わっている会場でしたが、いざ問われるとなかなかこれという答えが出ないものです。もう一度親として考え、ありがとうを共有したいと、講演がスタートしました。

子育ての原点は「命が生まれる」こと。女性はその命を懸け、大きな役割を持ち、自分の自由を手放すことで母となることを決める。



(写真は開会行事の様子)

大会テーマを「命」とし、九P大会と同様の提言方式で開催しました。1,000名近い参加をいただき、改めて命の大切さを共有できた素晴らしい大会になったと思います。大変お世話になりました。

(教養委員長 橋口健一)

夫が別の人格であるように、子ども一人の人格。何枚もの「期待」という服を着せてしまい、暑く重く苦しい思いをさせてしまっているのではないかと、もともと生まれてきたときは誰もが裸、期待という服は脱ぎ捨てていくという言葉があり、最後は詩の朗読で締めくくられました。

(出水中学校 徳山理恵)
(藤園中学校 井手宏美)

熊本市PTA協議会
 会長 家人 淳
 編集責任者 及川 雅恵
 〒861-8074 熊本市北区清水本町16-10
 熊本市健康センター清水分室新館2F
 TEL(288)3750 FAX(288)3754
 http://kumamotocity-pta.net
 info@kumamotocity-pta.net
 印刷：(株)キャップ TEL(362)3333

◆第1分科会

『楠中学校区三校一園の取り組み』

楠小学校PTA会長 園木ひとみ氏
指導助言 楠中学校 坂本美信校長



楠中学校区には楠中・楠小・楡木小・楠幼稚園があり、三校一園連絡協議会が構成されています。その三校一園の取り組みとして「地区懇談会」と「防犯ネットワーク会議」の二つの取り組みが紹介されました。

地区懇談会では今年度は「防災」をテーマに、「みんなで守る私たちのまち」として全体講演会を実施。分科会にて、「まわしよみ新聞」「家庭での備え」「子どもたちのケア」に分かれて研鑽を積んだそうです。

また防犯ネットワーク会議においては、三校一園各校長園長・生徒指導教員・PTA・各自治会長・青少協・児童委員・民生委員・交番が集まり、子どもたちを見守り育むための情報交換の場が紹介されました。そこでは「一部の人に偏りがち、無関心層へのはたらきかけ方」など、今後の課題点も発表されました。その後、お互いを知る・よい雰囲気になるワークショップが提言者により開かれました。

最後には指導助言者より、三校一園の取り組みが地域に密着したものであることを実感として述べられ、実際に地域の方から感謝の手紙を学校宛てに戴いたお話が印象的でした。



(出水小学校 小崎愛季)

◆第2分科会

『地域防災とPTAの関わり』

力合西小学校PTA会長 北岡忠勇氏
指導助言 力合西小学校 大江剛校長



現在、多くの学校が指定避難所に定められている状況であり、学校は防災拠点という位置づけにもなります。

普段は子どもたちの安全のために閉門している学校も、災害避難所となると多くの人が避難をします。その対応を先生方が担う傾向がありますが、先生方には児童の安全確認や救護、保護者への連絡、心のケア、学習力の維持と様々な仕事があります。そのため、口頭から保護者と地域、そして子どもたちが深く関わり、災害時の心構えや情報の伝達、思いやりなどの大切さを学ぶことが重要となります。また子どもたちの防災に対する目線と保護者の視点を合わせるために、実際に子どもたちと校区内を歩いたり、危険箇所を表現し合ったり、全校生徒の前で発表する機会を作ったりという活動を行っているそうです。

◆第3分科会

『スマホの向こう側』

市教委総合支援課学校サポート班 指導主事 田中慎一朗氏

「国のアンケート結果によると、家族と一緒に楽しく使える子はインターネットの利用時間が短い。ミックスチャンネル・ティップトップ・ライン・インスタグラム、これらを用い、現代の子どもたちは自らを表現し遊んでいる。他人ことではないと心配をされている。家庭も少なくないと思うが、色々な意味で日常生活へ影響を与えている事実は想像に難くない。そんな中、携帯を与えている一番身近にいる親の関わり方が影響



しているのかもしれない」とのお話を聞きま

子どもたちが校区内を歩いたり、危険箇所を表現し合ったり、全校生徒の前で発表する機会を作ったりという活動を行っているそうです。

続けて、防災シミュレーションゲーム「フロスロード」の研究委員でもあり、北部東小学校PTA副会長の吉村由美さんによる実際のゲームで盛り上がりました。防災に正解はなく、最善を尽くすことはできるといふ前提でのフロスロードクイズは、防災についての考え方を事前に地域や家族で話し合っておくことが大切だといふことを会場参加者と確認することになりました。

皆さまは家族で災害の準備ができていますか？
(託麻中学校 水間義仁)

子どもが、自身の写真や動画をアップした結果、見ず知らずの他人から傷つけられ、追いつめられているかもしれない。昔ハイイクで暴走していた子どもが、スマホの中で暴走しているとも聞きました。スマホを悪者にし、依存しているのを横目でみているだけではない、携帯電話の代わりに楽しいと思える替わりの何かを与える、そういった工夫や努力をする親でなければと感じました。

子どもが子どもでいる限られた時間を、親が何も関わらずに黙って見過ごしてはいけません。携帯をやめなさい！」の代わりに、「大丈夫？」と顔を見て、優しく声をかけることを始めたいと思います。「大丈夫？」我が子が、学校で友達に声をかけられることを願って。
(田迎南小学校 尾前美樹)

◆第4分科会

『尾ノ上校区地域活動とPTAの関わり』

尾ノ上小学校PTA会長 吉田英太郎氏
指導助言 尾ノ上小学校 田口清行校長

テーマについてスライドを使用して紹介があり、保護者や地域の方々がとても協力的で、自分たちの町が大好きなのだ、ものすごく感じました。「尾ノ上校区おやじの会」



「尾ノ上校区防災クラブ」など、どんどんやってみたいこと、やりたいことを実行に移し、みんなが、無理せずやれるだけ、楽しんでいけるのが伝わってきました。学校と地域との連携が子どもたち

の安心安全な暮らしの根源なのだと思います。スライドで見た、錦ヶ丘公園のクリスマスイルミネーションは、みんなの希望の光に見えました。吉田会長の話を伺って、「二人の手」の歌詞が頭に浮かびました。「二人の小さな手、何もできないけど、みんなの手と手を合わせれば、何かできる、何かできる……」私たちが地域と「協働」を念頭に子どもたちが安心して生活できる地域にしていきたいと思いをもちました。
(田底小学校 桑野和子)

PTAと私

私とPTAとの出会いは、長女が中学校に入学した平成24年4月でした。それはある日突然、「うちの旦那が中学校のPTAに入ります」と言われてあるけん、ヨロシク」との妻からの一言が始まりました。それまで私は、自分の子どもの入学式や卒業式、運動会にもほとんど行かなかった人でした。でも、PTAをやっている男性は、社長か自営業で自分みたいなサラリーマンの出る幕じゃないでしょ」と思いながらも、東野中学校PTA副会長としてPTAデビュー。ベテランの女性陣に転がされながら、力仕事をメインに活動する中で、執行部や先生方とのコミュニケーションが深まるにつれ、段々PTA活動が楽しくなってきました。

そして2年目の2月に緊急会議の招集がかかり、「何となく」と急ぎ集合に向かったところ、そこは私が「会長を引き受けます」と言っただけで帰れまテンという設定のものでした。もちろん私も「そもそもガヤガヤ体質で、大事な入学式、卒業式にも仕事柄出席できないような人間なので無理です」と丁重にお断りしたのですが、それは代打を立てれば大丈夫と一蹴され、平成26年にPTA会長にステップアップしてしまいました。

その後長男、次男が続いて入学してくる中、会長歴5年、更に究極の消去法により拜命した東区代表幹事も2年を迎えましたが、たとえ市PTAの中であっても、押しにゆるキャラ枠でやらせていただいています。

長かったPTAの旅路も、来年度ラストイヤー。デビューから早7年、これまで沢山の仲間達との出会いと支えをいただきながら、自分自身も成長させていきたいと思います。



(東区PTA連絡会代表幹事 松本知樹)